

受 付	個 人 質 問 令和 年 月 日	第 号 時 分
--------	---------------------	------------

一 般 質 問 < 個 人 > 発 言 通 告 書

令和3年5月31日

長久手市議会議長 殿

長久手市議会議員 伊藤真規子

会議規則第59条第2項の規定により下記のとおり通告します。

	質 問 事 項 及 び 要 旨	備 考
1	<p>デジタル・ディバイド（情報格差）に対する支援について</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響により、ICTを活用した手続きを求められる場面は、日常生活においても格段に増えている。しかし、ICTに関する知識や使用する機器の種類、助けてくれる人がいるか、そもそも機器を所有するかどうかは人によって様々で、全ての人が操作できる訳ではない。5月から始まった高齢者へのワクチン接種についても、インターネットによる予約方法も用意されていたが、コールセンターに電話が殺到し、混乱が生じたと全国で多数の報道があった。ワクチン予約以外にも、資格の更新や仕事、就職活動、病院の予約やイベントの参加でもICTを使うものが多い。</p> <p>ICTを使えなければ日常生活に支障をきたすようになった現在、行政手続きの手伝いや趣味の教室開催だけでなく、今困っていることを解消し、ICTへの慣れを増やす支援が必要だと感じる。そこで、デジタル・ディバイド（情報格差）に対する支援について長久手市の考えを伺う。</p> <p>(1) 共生ステーションや福祉の家でワクチン予約の支援が行われていたが、件数と内容はどのようなか。</p> <p>(2) 市のオンラインイベントでインターネット使用方法に関する問い合わせはあるか。</p> <p>(3) 市民が広い目的で使えるスマートフォンやパソコンを市の施設に設置し、使用方法も教えられるように支援を</p>	

	<p>拡充しないか。</p>	
2	<p>中学生の学校での居場所について</p> <p>中学生は、通常授業のときは毎日5時間から9時間を学校で過ごしている。1年間は毎日決められた級友と教室で過ごさなければならず、気を使って生活する状態である。比較的 자유가認められる大人でも疲れるのに、多感な時期の中学生は大変な負担を感じていると思われる。そこで現状と市の考えを伺う。</p> <p>(1) スクールカウンセラーへの相談件数はどのようなか。</p> <p>(2) 生徒が一人で静かに過ごすことも、数人で話をすることもできる休憩室を設定しないか。</p> <p>(3) (2)で挙げた休憩室に、スクールカウンセラーや相談できる大人を配置することについてどう考えるか。</p>	